

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2016 No. 2

(通巻 Vol. 56 No. 2)

Shakespeare Newsletter

日本シェイクスピア協会会報

2016 No. 2
(通巻 Vol. 56 No. 2)

目次

第55回シェイクスピア学会を終えて(会長挨拶)	1
2016年度日本シェイクスピア協会委員候補者推薦会議解散のお知らせ	2
2017年度総会とシェイクスピア祭のお知らせ	3
第56回シェイクスピア学会 研究発表ならびにセミナーメンバー募集要項	5
日本シェイクスピア協会基金へのご寄附について	8
2017年度会費納入のお願い	8
NOTICE BOARD	9
日本シェイクスピア協会賛助会員名簿	10
ホームページ掲載内容に関するお知らせ	10

第 55 回シェイクスピア学会を終えて

井出 新

シェイクスピア没後 400 周年を記念する第 55 回シェイクスピア学会は、4 月のシェイクスピア祭に引き続き、慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催されました。学会初日は研究発表で、審査を通過したすぐれた研究成果が 11 名の会員によって発表されました。二日目の午前中はオクスフォード大学ブレイズノーズ・コレッジ名誉教授 Martin Ingram 先生の特別講演“Shakespeare, Sex and Punishment”が行われ、午後は 2 室のセミナーと第 11 回シェイクスピア・ワークショップにおいて最新の研究成果を盛り込んだ活発な議論が展開されました。特に今回は慶應義塾大学文学部のご厚意で、教室やカフェテリアを無償でご提供していただくのみならず、献身的にお手伝い下さる大学関係者の方々や医学部ジャズ研究会 (Medical Jazz Quartets) の皆さんのご協力もいただきました。心温まるご支援に心から感謝申し上げます。

さて、没後 400 周年の記念行事についてご報告とお願いがございます。まず、学会とほぼ時を同じくして、シェイクスピアの没後 400 周年と協会創立 55 周年記念を兼ねての記念出版事業である日本語論文集が、研究社より『甦るシェイクスピア』と題して出版されました。編集に際して多くの時間を割き、煩雑な編集作業に尽力された佐藤達郎編集委員長をはじめ、佐々木和貴、清水徹郎、竹村はるみ、山田雄三の各委員に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

もう一つは寄附に関するご報告とお願いです。2010 年から会員の皆様に対しまして、協会の主要事業を賄うために一般会計へのご寄附をお願いして参りました。お陰様で、多くの会員の方々から多額のご支援をいただき、会員数減少の中にあっても、協会運営を滞りなく続けていくことができました。とは言え、会員の皆様からご寄附を受けなければ協会を運営できないという状況は健全とは言いがたく、これまで協会はそうした状況を改善すべく、委員会経費や事務局経費の軽減を積み重ね、2015 年度の一般会計から赤字に転じることができました。そこで皆様からお預かりした 2014 年度・2015 年度の寄附金はシェイクスピア基金に組み入れるとともに、これまで会員の皆様をお願いしておりました一般会計へのご寄附は、今年度をもちまして終了とさせていただきます。長い間、皆様から心温まるお励ましとご支援を頂戴しましたこと、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

これからも日本シェイクスピア協会は、研究年刊や総合学術誌のさらなる充実を図り、出版や講演会の活動、若手研究者の育成や国際文化理解の醸成に積極的に取り組んでいく所存ですが、新たな企画を立案し、その活動を立ち上げるには、推進力を得るための財源がどうしても必要となります。これまでシェイクスピア協会は「シェイクスピア基金」という、協会事業全般に向けて寄せられた寄附を原資とする財源を、記念論文集の出版、国内外の研究者による講演会の実施や、新たな事業活動の立ち上げなど、一般会計では処理できない特別な出費に充ててきました。しかし、そのシェイクスピア基金の残額も減少しており、記念すべきこの年に、日本シェイクスピア協会が更なる一歩を踏み出し、新たな事業活動を力強く前へ推し進めるには心許ない状況となっています。

そこでこの度、協会の主要事業を促進する様々な出版・講演会活動を充実させ、若手研究者の育成を推進するため、シェイクスピア基金へのご寄附をお願いすることにいたしました。基金のお願いをするにあたり、かつて東京で開催されたワールド・コンGRESSの資料を事務局から取り寄せ、読みなおしました。多くの先生方、先輩方が寄附集めに奔走されただけでなく、自ら惜しみなく寄附をされて、現在のシェイクスピア基金が成立したことに改めて思いをいたし、私自身も若い頃からお世話になり育てて頂いたシェイクスピア協会が、連綿と続くそういう先輩方の志によって今あることを痛感いたしました。

昨年の 8 月からお願いを開始して、現在までに有志の方々からご寄附いただいた額は数百万円にのぼっておりますが、ご寄附いただいたものは、大切にかつ有効に使わせていただきます。学問的レベルの向上や海外発信など必要は多くあります。ただ、

それ以上に、他者の知性を尊重し、文化の見識や知見を社会に充満させていくことも喫緊の課題です。そのためには、愛情をもって協会を支えてこられた尊敬する先輩方の志を受け止めつつ、若い世代の研究者育成のためにご寄附を有効に使用させていただくということが重要なのだと思っております。これまでの多くのご寄附に関して、この場を借りて心から御礼を申し上げるとともに、是非ご寄附にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

蛇足になりますが、会長を務めさせていただいてもうすぐ2年が経とうとしております。最近わかったことは、御礼をしたり、お願いしたり、お詫びをしたり、頭を下げるのが会長の主な仕事だということです。それに伴い、コリオレイナスの母親ヴォラムニアの言葉が、とても心に刺さるようになりました。ヴォラムニア曰く、「こうやって頭を何度も下げれば、おまえのかたくなな心を矯正してくれる。熟し切った桑の実のように、いかようにも曲げられるように、しなやかになるのだよ」。シェイクスピアの言葉を健気に信じて、残りの任期を務めますので、シェイクスピア協会へのご協力ご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

2016年度日本シェイクスピア協会委員候補者推薦会議解散のお知らせ

委員候補者推薦会議
 安達 まみ(議長)
 勝山 貴之
 末廣 幹
 由井 哲哉

2016年度の委員選挙につきまして、11月12日(土)に事務局において開票を行い、7名の新委員が決定いたしました。詳細は Notice Board の選挙結果のお知らせをご覧ください。

また11月21日(月)までに、当選者全員から書面にて委員就任の受諾を受け、委員選挙はすべて終了いたしました。従いまして、11月21日(月)をもって委員候補者推薦会議を解散いたしました。

皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

2017 年度総会とシェイクスピア祭のお知らせ

2017 年度の総会は下記の通り行われます。皆様のご出席をお待ちしております。

日時：2017 年 4 月 22 日(土) 12:00 ～ 12:30

場所：明治大学駿河台校舎リパティタワー（東京都千代田区神田駿河台 1-1）

最寄駅からのアクセス

■ JR 中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅下車徒歩約 3 分

■ 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅下車 徒歩約 5 分

■ 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅下車徒歩約 5 分

また本年度のシェイクスピア祭を日本英文学会共催、明治大学学部間共通総合講座である「シェイクスピアの現代的魅力」協力で、下記の通り開催します。一般公開（事前予約不要）で入場無料です。お知り合いをお誘いのうえ、多数ご参加ください。

日時：2017 年 4 月 22 日(土) 13:00 ～ 16:30

場所：明治大学駿河台校舎リパティタワー

13:00 ～ ご挨拶

13:10 ～ トーク「蝸川シェイクスピアをふりかえる」

松岡和子氏（翻訳家・演劇評論家、東京医科歯科大学名誉教授）



圧倒的規模と想像力で「日本のシェイクスピア」を次々に発信し続けた蝸川幸雄。もはや新たな NINAGAWA SHAKESPEARE を観ることができないという事実の大きさが、重く感じられてなりません。継承か、超克か。そもそもシェイクスピアを含めて、日本演劇を超克しようとしていた蝸川亡き後、この問いは、彼のシェイクスピア作品をふりかえるところから始められるべきでしょう。

蝸川没後一年をまさに迎えようとする今回のシェイクスピア祭では、彩の国シェイクスピアシリーズで、「座付き翻訳家」として蝸川幸雄と長年協同してきた松岡和子氏に、蝸

川シェイクスピアの特色と、ご自身の経験をふりかえていただきます。

（聞き手：野田学 明治大学教授）

15:00 ～ 16:20 講演 「『シェイクスピアの面白さ』とは何か」

講師：高田康成氏（東京大学名誉教授、名古屋外国語大学現代国際学部教授）

シェイクスピアは「一時期のものではなく全ての時代のためにある」と言ったのはベン・ジョンソンだが、そののちイギリス革命の動乱を挟んで王政復古期ともなると、『リア王』にしろ『コリオレイナス』にしろ『リチャード二世』にしろ、そのまま上演されることはなく、悪名高い「改作」として大流行となる。その間わずか半世紀余り、「全ての時代のために」など何処吹く風。この歴史的事態を重く受け止めるならば、20-21 世紀の極東の島国に生息するわれわれが「面白い」と思っているシェイクスピアは、ひょっとするととんでもない代物かもしれない。少なくとも、16



世紀末-17世紀初頭の英国で特定の意味の形を成したシェイクスピアとは、およそかけ離れたものである可能性は高いのではないだろうか。それでもなお「面白い」と言うのであれば、その「面白さ」とは何か。

*** 出演者プロフィール *****

松岡和子（まつおかかずこ）氏

1942年旧満州新京（長春）生まれ。翻訳家・演劇評論家。日本シェイクスピア協会会員、国際演劇評論家協会会員。第21期、22期国語審議会委員。2008年度まで文化庁文化審議会委員。東京女子大学英米文学科卒業。東京大学大学院修士課程修了。専攻は17世紀イギリス演劇。発足当初の現代演劇協会（附属劇団雲）文芸部研究生、『罪と罰』（演出・福田恆存）『黄金の国』（演出・芥川比呂志）の公演には演出助手として参加。1982年東京医科大学（教養部）助教授（1986～97年）。

【著書】『ドラマ仕掛けの空間』（創樹社）、『すべての季節のシェイクスピア』（筑摩書房）、河合隼雄氏との対談集『快読シェイクスピア』（ちくま文庫）、『「もの」で読む入門シェイクスピア』（ちくま文庫）、『深読みシェイクスピア』（新潮文庫）など。

【訳書】『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『クラウド9』など多数。現在、シェイクスピア戯曲の全訳に取り組んでおり、既刊は『ハムレット』『ロミオとジュリエット』『マクベス』『リア王』『夏の夜の夢・間違いの喜劇』『十二夜』『リチャード三世』『テンペスト』『ウィンザーの陽気な女房たち』『ヴェニス商人』『ペリクリーズ』『タイタス・アンドロニカス』『コリオレイナス』『オセロー』『お気に召すまま』『恋の骨折り損』『から騒ぎ』『冬物語』『ヘンリー六世・全三部』『じゃじゃ馬馴らし』『アントニーとクレオパトラ』『シンベリン』『トロイラスとクレシダ』『ヘンリー四世・全二部』『ジュリアス・シーザー』『リチャード二世』『ヴェローナの二紳士』『尺には尺を』『アテネのタイモン』（以上33本）。

【受賞歴】1995年第2回湯浅芳子賞受賞（海外戯曲翻訳部門）。

聞き手 野田学（のだまなぶ）氏

1963年東京生まれ。英文学・演劇評論家。国際演劇評論家協会日本センター会員。演劇誌『シアターアーツ』（国際演劇評論家協会日本センター）、web演劇誌 *Critical Stages*（国際演劇評論家協会、<http://www.critical-stages.org/>）編集部員。

高田康成（たかだやすなり）氏

1950年東京生まれ。表象古典文化論。

【単著】『キケロ ヨーロッパの知的伝統』（岩波新書、1999）、*Transcendental Descent: Essays in Literature and Philosophy* (University of Tokyo Centre of Philosophy, 2007)、『クリティカル・モーメント—批評の根源と臨界の認識』（名古屋大学出版会、2010）。

【共著】*Platonism and the English Imagination* (Cambridge UP, 1994)、*The Body and the Soul in Medieval Literature* (Boydell & Brewer, 1999)、『ムーサよ語れ -古代ギリシア文学への招待』（三陸書房、2003）、*The Classics and National Cultures* (Oxford UP, 2010) など。

【翻訳】P. グリマル『キケロ』（白水社、1994）、P. ドロンケ『中世ヨーロッパの歌』（水声社、2004）、G. スタイナー『師弟のまじわり』（岩波書店、2011）、『エラスムス＝トマス・モア往復書簡』共訳（岩波文庫、2015）など。

第56回シェイクスピア学会 研究発表ならびにセミナーメンバー募集要項

第56回シェイクスピア学会は、2017年10月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり、近畿大学(東大阪キャンパス)において開催されます。つきましては、下記により研究発表ならびにセミナーメンバーを募集いたします。

なお、シェイクスピア学会と同時に開催しておりました、シェイクスピア・ワークショップは第11回(2016年度)をもって終了し、シェイクスピア学会のセミナーの一つとして統合されます。同ワークショップが担ってきた「大学院生を主とする若手研究者の知的・学問的交流の場を作る」という機能を、その重要な役割の一つとして引き継ぐことで、セミナーが今まで以上に広く、すべての会員に開かれた知的・学問的交流と共同研究の場になります。

第56回(2017年度)シェイクスピア学会では、3つのセミナーのうち、「セミナー3」が特に上記の目標を念頭に置いて企画されたものです。例えば修士課程の大学院生など学生会員・若手を含めて、広く会員の方々がセミナーメンバーにご応募くださることを期待します。

◇研究発表

学会1日目に行われる研究発表を募集します。以下の<研究発表応募規程>をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<研究発表応募規程>

1. 応募者は日本シェイクスピア協会の会員であり、応募時にその年度の会費を納入済みであること。
2. 一般研究とし、テーマを問わない。ただし未発表のものに限る。
3. 応募の採否は日本シェイクスピア協会委員会が決定する。
4. 応募の際には、WORD (.doc)、WORD (.docx)あるいはリッチテキスト (.rtf) のファイル形式で、以下の[1][2][3]を ssj-conference@nifty.com 宛てに、2017年6月16日(金)正午までに電子メール添付で送付するものとする。なお電子メールの件名は「研究発表応募」とすること。
 - [1] 研究発表概略(横書き和文2,000～4,000字、または英文800～1,500語)。
 - [2] 研究発表要旨(学会プログラム資料原稿用、横書き和文400字、または英文150語以内)。
 - [3] 以下の情報を記載したカバーレター
 - ・研究発表のタイトル
 - ・氏名 [ふりがなつき]
 - ・現在の所属と職名・身分(現在の所属がない場合は簡単な経歴)
 - ・連絡用の住所、電話番号、ファックス番号(ファックスがある場合)、電子メールアドレス

なお、応募メール送信後1週間を経ても応募受領通知の返信がない場合は、上記アドレス宛てに問い合わせを行うこと。

***応募方法が電子メールに変更されましたので、ご注意ください。**

◇セミナー

学会 2 日目に 3 つのセミナーを企画しました。セミナーメンバーを募集します。下記のとくセミナーメンバー応募規程>をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

セミナーは日本シェイクスピア協会会員がメンバーとなって共同研究を進め、知的・学問的交流を行うための場です。またコーディネイターの裁量で、コメンテーターおよび日本シェイクスピア協会会員外のゲストが加わる場合もあります。

今回企画したセミナー 3 では、まだ学会発表等の経験が少ない学生会員・若手会員の積極的な応募を特に推奨しますが、年齢の制限等はありません。また逆に、学生会員・若手会員がセミナー 1 やセミナー 2 に参加することをなんら妨げるものでもありません。

<セミナーメンバー応募規程>

1. 応募者は日本シェイクスピア協会の会員であり、応募時にその年度の会費を納入済みであること。
2. 応募の際には、WORD (.doc)、WORD (.docx) あるいはリッチテキスト (.rtf) のファイル形式で、以下の[1][2]を、ssj-conference@nifty.com 宛てに、2017年5月8日(月)正午までに電子メール添付で送付するものとする。なお電子メールの件名は「セミナー応募」とすること。
 - [1] 発言の「主旨」(横書き和文 200 字以内、または英文 100 ~ 150 語)。
 - [2] 以下の情報を記載したカバーレター
 - ・参加希望のセミナーテーマ
 - ・氏名 [ふりがなつき]
 - ・現在の所属と身分(現在の所属がない場合は簡単な経歴)
 - ・連絡用の住所、電話番号、ファックス番号(ファックスがある場合)、電子メールアドレス

なお、応募メール送信後 1 週間を経ても応募受領通知の返信がない場合は、上記アドレス宛てに問い合わせを行うこと。

各セミナーとも、コーディネイターと協議のうえ、メンバーの選抜を行う場合があります。

*** 応募方法が電子メールに変更されましたので、ご注意ください。**

各セミナーの①コーディネイター、②テーマ、③指針は以下の通りです。

セミナー 1

- ① 石橋 敬太郎 (岩手県立大学教授)
- ② トマス・デカーの作品とその時代性
- ③ 推定によると、トマス・デカーは、40 編以上の演劇作品(単独作品は 5 編)を執筆し、そのうち 17 編が現存していると考えられている。一般にデカーと言えば、市民階級の生活を写実的にあるいは教訓的に描いた劇作家としてよく知られている。しかし、そればかりではなく、「時代性」という観点から見たとき、彼には、バーバリー王子の権力欲を描いた *Lust's Dominion* (1600)、反スペイン感情に訴えた *Sir Thomas Wyatt* (1604) や *The Whore of Babylon* (1606) など、創作時のイングランドを取り巻く国際情勢を扱った作品も存在する。さらに、演劇作品以外にも、デカーは、ベスト流行時のロンドン人の恐怖をつづった *The Wonderful Year 1603* (1603)、下層社会に巢食う悪や欺瞞を記述した *The Seven Deadly Sins of London* (1606) など、市井の状況を活写したパンフレットも多数執筆していた。

このように、デカーは、彼がおかれていた創作環境の中で、時代と向き合い、その当時のポリティクスや市民生活の矛盾などを描いた作者ということが可能である。そこで、本セミナーでは演劇作品を中心に、パンフレットや散文作品も視野に入れながら、デカーの作品がどのように時代を映し出し、どのようなメッセージを発信していたのかを明らかにすることを通して、デカーの同時代性の解明を試みたい。

セミナー 2

- ① 村上 健 (津田塾大学教授)
- ② 英學史におけるシェイクスピア
- ③ 「シェイクスピア没後 400 年 (2016 年)」と「明治 150 年 (2018 年)」に挟まれた今年 (2017 年) は、「日本におけるシェイクスピア受容史」を包括的に再検討するには格好の時期ではないでしょうか。

これまでの「受容史」研究は、翻案を含む個別の「翻訳」と「上演」研究が中心となってきましたが、その研究の土台となる演劇資料や情報は十分に集大成されているのでしょうか。また、「受容史」の射程を拡げ、日本人研究者による「研究 (法)」も含めると、どのような問題が見えてくるのでしょうか。

英国ルネサンス演劇を俯瞰する為の基本文献だった "Annals of English Drama, 975-1700" (3rd ed., 1989) を完全に凌駕する Martin Wiggins, "British Drama 1533-1642: A Catalogue" (既刊 7 巻、全 10 巻予定) を横目で睨みながら、広義の書誌学的研究法を意識しつつ、幕末から明治・大正・昭和前期辺りまでを中心に議論したいと考えています。

セミナー 3

- ① 中村 未樹 (大阪大学准教授)
- ② 『十二夜』を読む
- ③ シェイクスピアの喜劇『十二夜』については、これまでジェンダー、セクシャリティ、変装、階級、地理学、宗教、祝祭性、ジャンルなど、様々な観点からの分析が行われてきました。また、本作品は舞台において特に人気のあるシェイクスピア作品の一つになっており、多様な演出による上演が試みられています。そして、歌舞伎や映画など異なるメディアにおける翻案も行われています。このセミナーでは、本作品に関する先行研究、また 17 世紀から現在までにおける上演および翻案の状況を踏まえながら、『十二夜』の新たな解釈の可能性を模索していきたいと思えます。様々な角度からこの作品を読み解いていき、最終的にそれらの成果を繋ぎ合わせることで、本作品の歴史的・文化的意義、喜劇性、そして観客・読者に対する効果などを総合的に捉えていくことが狙いとなります。

本セミナーは従来のシェイクスピア・ワークショップの代わりとなるものです。大学院生 (修士課程を含む) 及び若手研究者の方々の本セミナーへの参加を特にお待ちしております。

日本シェイクスピア協会基金へのご寄附について

日本シェイクスピア協会では、円滑な事業運営や新規事業の推進のため、日本シェイクスピア協会基金へのご寄附をお願いしております。

平成 28 年 4 月 1 日から 12 月 31 日までに皆様からお寄せいただいたご寄附の総額は 2,490,000 円となりました。(7 月 31 日までに一般会計にお寄せいただいたご寄附はご了承を得て、基金に組み入れさせていただきました。)

ご寄附いただいた方々のお名前をここにご報告させていただき、皆様のご理解とご協力に対して心より御礼申し上げます。

寄附者名簿 (50 音順)

安達まみ様、井出新様、上野美子様、太田一昭様、金子雄司様、
川井万里子様、楠明子様、小林潤司様、住本規子様、竹村はるみ様、
中野春夫様、原英一様、山田昭廣様、Mihoko Suzuki 様、
匿名希望 1 名、1 グループ (以上、複数回のご寄附も含めて 17 件)

2017 年度会費納入のお願い

2017 年度 (2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日) 会費は、一般会員 8,000 円、学生会員 5,000 円です。協会の全ての刊行物は、当該年度の会費納入者のみに送付しております。円滑な協会運営のためにも、**6 月末日**までの納入をお願い申し上げます。なお、会費のお支払いは以下の 3 通りの中からご都合のよい方法をお選びください。

- 1) ゆうちょ銀行口座からの自動引き落とし：宛名ラベル下段に自動引き落としと明記されている方は 6 月 3 日 (土) までに口座残高のご確認をお願いいたします。新規でご希望の場合は、事務局までご連絡ください。
- 2) 郵便振替による納入：同封の郵便振替用紙をご利用ください (2017 年度会費の既納者と 2016 年度にて退会希望のご連絡をいただいている方には、郵便振替用紙を同封しておりません)。領収書をご希望の方はその旨、振替用紙表側の通信欄にご記入ください。
- 3) みずほ銀行口座へのお振り込み (送金手数料は会員の皆様のご負担となります)

みずほ銀行 九段支店 普通預金 1671451
一般会計日本シェイクスピア協会

- 注意点 1 みずほ銀行へのお振り込みに際しては、協会に送金通知が届かないため、ご送金後、必ずメール (shakespeare-japan@nifty.com) または FAX (03-3260-8109) で事務局までご連絡ください。領収書をご希望の方は、その旨もお知らせください。
- 2 学生会員登録をご希望の方は、5 月末日までに、当該年度の学生証のコピーを FAX、メール、郵送のいずれかに事務局までお送りください。5 月末日までに学生証のコピーが届かなかった場合は、特別な事情がある場合を除いて、一般会員として登録し、差額をお支払いいただきます。

<p style="text-align: center;">NOTICE BOARD</p>
--

◆ 2016年8月9日 *Shakespeare Newsletter* 2016(通巻 Vol. 56) No.1 を刊行した。

◆ 2016年8月23日 大会プログラムを発送した(*Shakespeare Newsletter* No.1 同封)。

◆ 2016年10月8日 第3回定例委員会を慶應義塾大学三田キャンパス南校舎 451 教室にて開催した。議題は次の通り。1) 第56回シェイクスピア学会概要について 2) その他。

◆ 2016年10月8日、9日 第55回シェイクスピア学会を慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催した。詳細についてはホームページをご覧ください。

◆ 2016年10月9日 第11回シェイクスピア・ワークショップを慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催した。詳細についてはホームページをご覧ください。

◆ 2016年10月11日 シェイクスピア没後 400 周年記念事業の一環として Martin Ingram 教授の講演とセミナーを慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催した。

◆ 2016年10月31日 日本シェイクスピア協会編『甦るシェイクスピア—没後 400 周年記念論集』(研究社)が刊行された。

◆ 2016年11月12日 事務局にて、委員候補者推薦会議による開票作業を事務局長立ち合いのもとで行った。有権者数 481、投票者数 186 (投票率 38.7%)。有効投票数 185 (内、白票 2 票)。無効投票数 1 (投

票締切日を過ぎて到着したもの 1)。開票結果は以下の通り。当選者(敬称略、50音順):石塚倫子、河合祥一郎、川田潤、佐々木和貴、佐藤達郎、末松美知子、冬木ひろみ。次点 正岡和恵、次々点 境野直樹。委員候補者推薦会議は選挙結果の報告、新委員の就任意思の確認を終え、11月21日をもって解散した。投票結果の速報は同日、HP に掲載した。

◆ 2016年12月10日 会長選挙開票。井出新氏(慶應義塾大学)が選任された。任期は2017年4月1日から2年。

◆ 2016年12月10日 選挙結果報告。新会長決定後、全会員宛に新会長名と新委員会メンバー一覧を葉書で通知。

◆ 2016年12月10日 第4回定例委員会を慶應義塾大学三田キャンパス南校舎 434 教室にて開催した。議題は次の通り。1) 第55回シェイクスピア学会会計報告、2) 2017年度シェイクスピア祭について、3) 第56回シェイクスピア学会について、4) その他。

◆ 2017年2月10日 *Shakespeare Newsletter* 2016(通巻 Vol.56) No.2 を刊行した。

◆ 2017年3月7日 *Shakespeare Studies* Vol.54 を刊行予定。

◆ 2017年3月20日 *Shakespeare Journal* Vol. 3 (通巻 Vol.56) を刊行予定。

◆ 2017年3月25日 新旧委員による引き継ぎ会を慶應義塾大学にて開催予定。

日本シェイクスピア協会賛助会員名簿 (五十音順)

アイ・ヴィー・シー
 板橋演劇センター
 インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン (ITCL)
 うずめ劇場
 エディション・シナプス
 オックスフォード大学出版局
 グローバル・リンケージ
 劇団 山の手事情社
 研究社
 ケンブリッジ大学出版株式会社
 シェイクスピアホテル
 プロクエスト日本支社
 文学座

ホームページ掲載内容に関するお知らせ

2013年度より、以下の内容は原則としてホームページにのみ掲載し、ご要望があった場合は随時、コピーをとってお送りいたしております。

規約全文、シェイクスピア祭報告詳細、学会特別講演・セミナー報告、
 (旧)シェイクスピア・ワークショップ報告、国際交流フェローシップ
 応募要項、日本シェイクスピア協会奨励賞規程、*Shakespeare Studies* 投稿
 規程、*Shakespeare Journal* 投稿規程 以上

協会ホームページ URL <http://www.s-sj.org/>

SHAKESPEARE NEWSLETTER

日本シェイクスピア協会会報
 2016 (通巻 Vol. 56) No. 2

2017年2月10日 発行
 編集 日本シェイクスピア協会
 発行人 井出 新
 発行所 東京都新宿区神楽坂 1-2
 研究社英語センタービル 3F
 日本シェイクスピア協会
 印刷 佐藤印刷株式会社
 © 日本シェイクスピア協会 2017